

あなたがここにいるから・・・

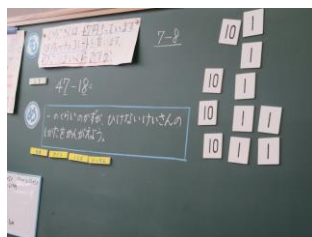
よい良い授業を目指して・・・

昨年度より本校は、西海市教育委員会の指定を受け、「学力向上」の研究に取り組んでおります。研究主題を「自ら学び取ろうとする雪小っ子の育成」とし、サブテーマには、「学ぶ喜びを抱かせる手立ての工夫を通して」を掲げております。

私たち教員にとってのバイブルとも言える学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」による、社会に出てからも学んだことを生かせるような学校教育の推進が強く求められており、その点において本校の研究は、時代の求めにぴったりと合ったものであると自負しています。

研究2年目となる本年度は、11月に研究発表会を予定しており、現在、全職員一丸となって研究を進めているところです。

ゴールデンウィーク明けの今月10日、研究の一環として、今年度初めての研究授業を実施しました。



今回の授業学年は2年生。教科は算数でした。「遠足のおやつを買う」という子供たちにとってなじみ深い問題場面を通して、主体的に「2けた-2けた」のひき算に取り組むわけですが、そんな子供たちの前に大きな壁が立ちほだかります。

求めたい計算は、「 $47-18$ 」。

これまでと違って、一の位の7から8を引くことができません。

子供たちは、そのつまずきをもとに自ら学習のめあてを設定し、ペアやグループによる話し合い活動をしながら、これ



まで学習してきたことを生かして何とか解決しようと、一生懸命に課題と向き合いました。決してあきらめることなく、解決を目指して自分なりに頑張る2年生の姿は、まさに「主体的に学ぶ姿」であり、「自ら学び取ろうとする姿」そのものだったと思います。

子供たちが下校した後は、全教職員で授業の振り返りを行いました。「この手立ては効果的だった」「いや、もっとこうするべきだ」など、本音で議論が交わされました。



御承知の通り、2年生担任は本校でもっとも教職経験が豊かなベテランです。そんなベテラン教師も飽くなき探求心で、より

よい授業を追求する。そして子供もそれに応えるべく、一生懸命に課題に向き合う。授業後は、さらに良い指導の在り方を求めて、全教職員で本気で議論する。まさに本校の強みであり、自慢の一つです。

さて、学校では、今回の授業、そしてその後の習熟を通して、繰り下がりのある二けたのひき算をしっかりと身に付けさせます。しかしながら、本当に大切なことは、買い物に出かけた際や家庭の中で起こる実際の生活場面で必要な時に適宜、身に付けた力を発揮できるかどうかです。

各御家庭におかれましては、日常生活の中で、子供たちが学校で学んだ内容を発揮できる場面を逃さず、一緒に話題にいただければと思います。そのためにも、家庭学習などを通して、子供たちが学校でどんな学習をしているか、御確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

学校と家庭で協力し、「自ら学び取ろうとする雪小っ子」を育ててまいりましょう。

※裏面も御覧ください

地域の皆様の御厚情に感謝！

本日、降りしきる雨の中、雪浦地区婦人会の山中様、井手様、山下様が学校に見えられ、素敵な贈り物を届けてくださいました。



いただいたのは、手縫いのタオルマット。

写真にありますように、大きな段ボールと紙袋5つに愛情いっぱいマットがぎっしりと詰まっていました。

「コロナ禍で子供たちとなかなか交流することができないが、何か子供達のためにできることはないか・・・。」

雪浦地区婦人会会員の皆様が、各御家庭のタオルを一つ一つ縫い合わせ、丹精込めて作ってくださったとのことでした。

校長室で雪小のリーダー6年生3名が、全校児童を代表してありがたく頂戴し、お礼の言葉を述べました。

事実、雨が続くと校舎が湿気で滑りやすくなります。これは雪小の悩みの一つです。梅雨の時期を控え、今回の贈り物は、雪小っ子にとって、本当にありがたい限りです。

雪小っ子を思う地域の方々の愛情に触れ、リーダー6年生も喜びでいっぱい、その表情は、いつも以上にこやかでした。



地域の方々の愛情に支えられ、雪小っ子は、元気に学校生活を送ることができます。

本当にありがとうございました。

(文責 校長)